

港湾の維持修繕工事における積算に関する一考察

平成30年 8月31日

(一財)港湾空港総合技術センター 島田 伊浩

本日の構成



- 港湾の維持修繕工事とは
- 考察
- 情報の蓄積・共有化について

1. 港湾の維持修繕工事とは



2-1.考察

① 積算について

見積書の要請について積算者は、維持修繕工事の情報収集を行い考えられる施工フローや代価構成を明示することが必要となる。

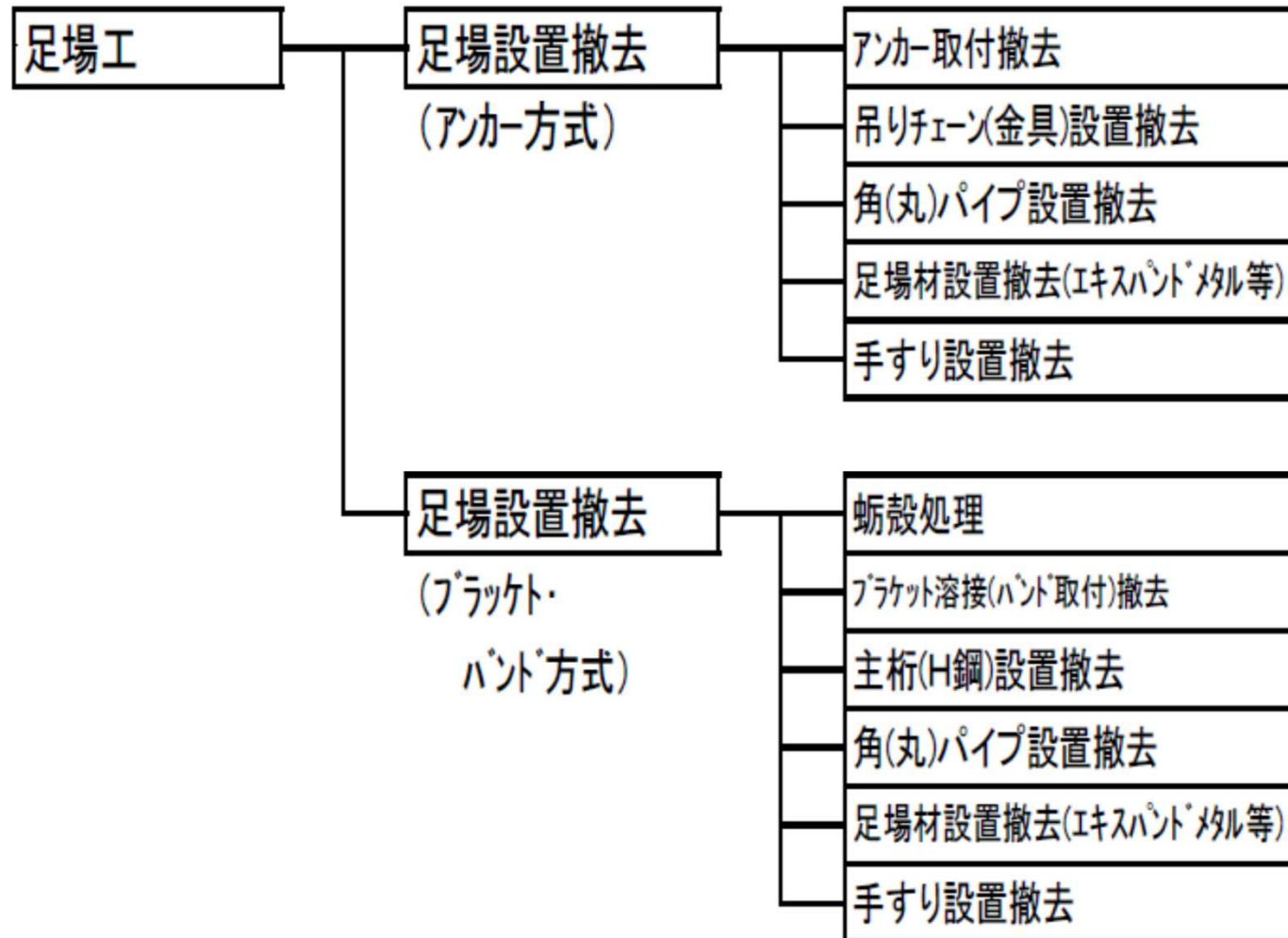
② 作業効率について

作業効率は、施工ロット、施工環境・制約（供用条件）、工期等の影響を考慮する必要があるが、現状では現場の作業効率を確実に把握することは困難であるため、施工実績に基づき設計変更を加味した積上げ積算方式で発注・契約する必要がある。

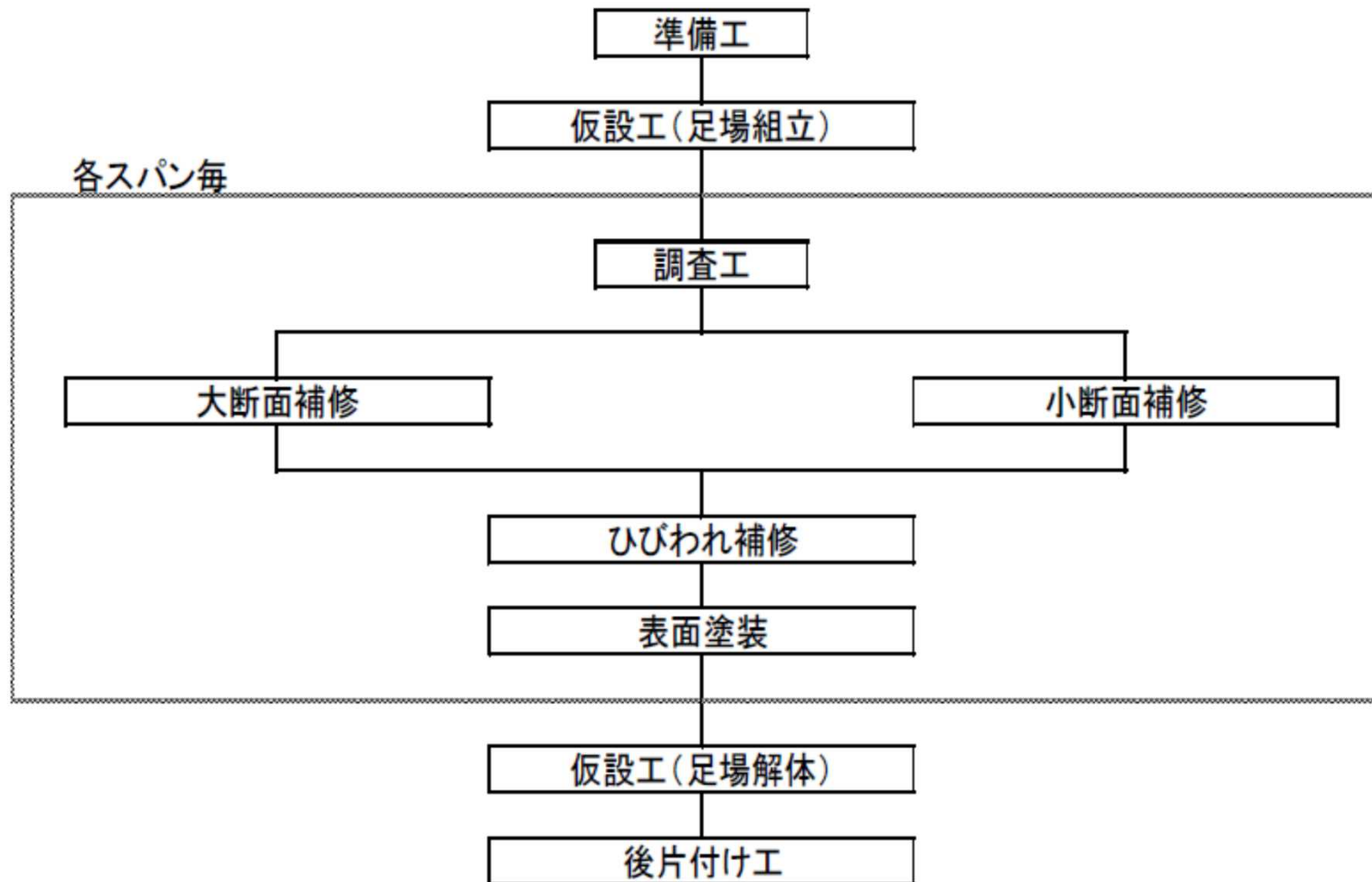
③ 積算の体系化について

維持修繕工事における積算基準化に向けて、維持修繕工事における各工種の積算ツリーや施工フローの整備が必要となる。

2-2. 考察



2-3. 考察



2-4.考察

④ 施工規模について

維持修繕工事については、新設工事とは異なり小規模工事となる場合が多くあるため、歩掛かりの策定や間接工事費において現場の実態を適切に反映させる必要がある。

⑤ 施設の現況について

維持修繕工事の情報収集を行い、近隣施設や類似施設の構造等のデータを参考として施設の現況を把握する。

3-1.情報の蓄積・共有化について



施工歩掛かりを策定するため、実態調査を行い基準化の取り組みを行うべきであるが、維持修繕工事では、施工条件等が多岐にわたるので基準化には時間を要すると考えられる。そのため、維持修繕工事の情報を蓄積・共有することにより積算の効率化を図ることが必要となる。

情報を蓄積・共有することにより、「情報の一人歩き」、「悪用」、「取り違い」「流出」などのリスクが高まることによる社会的コストの増加はあるものの、適切に運用される対策を検討する必要がある。

3-2.情報の蓄積・共有化について



情報と言っても、維持管理・メンテナンスのために必要な情報は何かははっきり示されないと、収集する情報に過不足が生じ、後に再度実施しなければならないなど円滑な実施の支障となる恐れもある。

そのため、「構造形式」、「施工条件」、「維持修繕工法」等に関する記録を管理することが重要と考え、関連する様々な情報を一元的に管理し、蓄積・共有する必要がある。

・情報の共有化は、問題解決ツールではなく、活性化ツールである。

ご清聴ありがとうございました